

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク 活動報告

1	豊田加茂ウェルビーイングネットワーク体制図・・・	1
2	特別講演・・・・・・・・・・・・・・・・	3
3	部会①企画研修会・・・・・・・・・・	18
4	部会②企画研修会・・・・・・・・・・	25
5	部会③企画研修会・・・・・・・・・・	31
6	部会④企画研修会・・・・・・・・・・	37
7	研修受講後アンケート結果・・・・・・・・	43

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

豊田加茂医師会 地域医療介護委員会が実施主体となり、当会の在宅医療のビジョンに基づき、各関係機関と連携・協働し当ネットワークでの取り組みが実施できるよう下記の体制を明確にし、効果のあるネットワークの構築に努める

※【豊田加茂医師会 在宅医療のビジョン】

超高齢社会でも地域に住む人が不足なく医療が受けられ、本人の望む場所で、望む療養ができる。～本人の本人による本人のための人生の実現～

【基本理念】

☆本ネットワークの活動は、病気や障がいがあっても、誰もが自分らしく生きることを支えることができ、認知症や、人生の最終段階において意思決定が困難になった状況においても、本人が、本人らしい選択ができ、尊厳をもって人生をまっとうすることができる地域となることを目標とする。

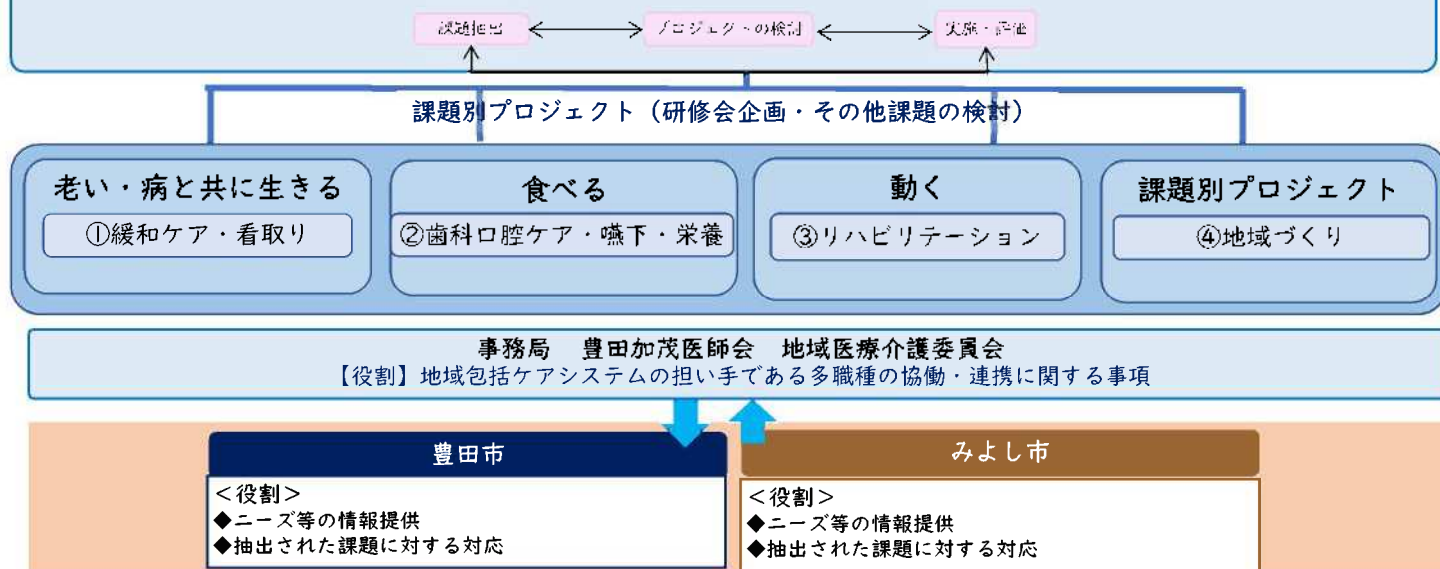
☆本ネットワークの活動は、すべての取り組みにおいて、Well-Being（ウェルビーイング）、ALP（アドバンスライフ・プランニング）、ACP（アドバンスケア・プランニング）、ELC（エンド・オブ・ライフ・ケア）の考え方が、支援の基本姿勢にあることを十分に理解し進める。

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク 代表者会議

【構成】西三河北部医療圏における地域包括ケアシステムに係る関係職種の代表

【役割】地域包括ケアシステムの担い手である多職種が、互いの役割を知り、協働・連携を進めることに係る取り組みを進めるための課題の抽出、具体策の立案、モニタリング

【頻度】年2～3回



豊田加茂ウェルビーイングネットワーク 参加組織一覧

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田加茂医師会 ・ 豊田加茂歯科医師会 ・ 豊田加茂薬剤師会 ・ 豊田市介護サービス連絡協議会 ・ 豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会 ・ みよし市 特別養護老人ホーム ・ 愛知県老人保健施設協会 ・ 豊田市地域自立支援協議会 ・ みよし市障がい者自立支援協議会 ・ AMSW協会 西三河北部ブロック ・ 愛知県歯科衛生士会豊田みよし支部 ・ 豊田市療法士会 ・ みよし市療法士会 ・ 豊田市保健所管内栄養士連絡会 ・ みよし市 栄養士 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 豊田市介護サービス連絡協議会 訪問看護部会 ・ みよし市 訪問看護 ・ 豊田市介護サービス連絡協議会 ケアマネジャー部会 ・ みよし市 ケアマネジャー ・ 豊田市介護サービス連絡協議会 訪問介護部会 ・ みよし市 訪問介護 ・ 豊田市介護サービス連絡協議会 デイサービス部会 ・ みよし市 デイサービス ・ 豊田市基幹包括支援センター ・ みよし市 地域包括支援センター ・ 豊田市 ・ みよし市 |
|---|---|

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

豊田加茂医師会は、西三河北部医療圏（豊田市・みよし市）が、病気や障がいがあっても誰もが自分らしく生きることを支えることができ、認知症や、人生の最終段階においても、本人が本人らしい選択ができ、尊厳をもって人生を全うすることができる地域となることを目指し、豊田加茂ウェルビーイングネットワークを立ち上げました。



部会①

老い・病と共に生きる
～緩和ケア・看取り～



部会②

食べる～歯科口腔ケア・
嚥下・栄養～



部会③

動く
～リハビリテーション～



部会④

課題別プロジェクト
～地域づくり～

豊田市・みよし市の保健・医療・福祉その他の在宅療養に携わる関係機関に所属する多職種の皆さんと共に、代表者会議・部会①～④にて活動をしています。

主催 豊田加茂医師会

2 特別講演

「エンドオブライフ・ケア

～苦しみがあっても穏やか・全ての人の
ウェルビーイングについて考える」

令和5年度豊田加茂ウェルビーイングネットワーク【特別講演】実施報告書

- ・開催日時 令和5年10月18日（水） 18時から20時
- ・会場 豊田加茂医師会館
- ・テーマ 「エンドオブライフ・ケア ～苦しみがあっても穏やか・
全ての人のウェルビーイングについて考える～」

・講演

講師：めぐみ在宅クリニック院長

エンドオブライフ・ケア協会代表理事 小澤 竹俊 先生

・参加者 125名

（内訳）医師8名、歯科医師1名、薬剤師2名、看護師23名、訪問看護12名、保健師5名、作業療法士1名、理学療法士6名、管理栄養士3名、MSW4名、介護支援専門員17名、社会福祉士9名、生活相談員2名、相談支援専門員3名、施設管理者1名、施設長2名、施設職員（入所）2名、介護職員1名、通所介護1名、訪問介護1名、介護士2名、歯科衛生士1名、名古屋医専 教官1名、行政12名、事務職4名、病院事務1名



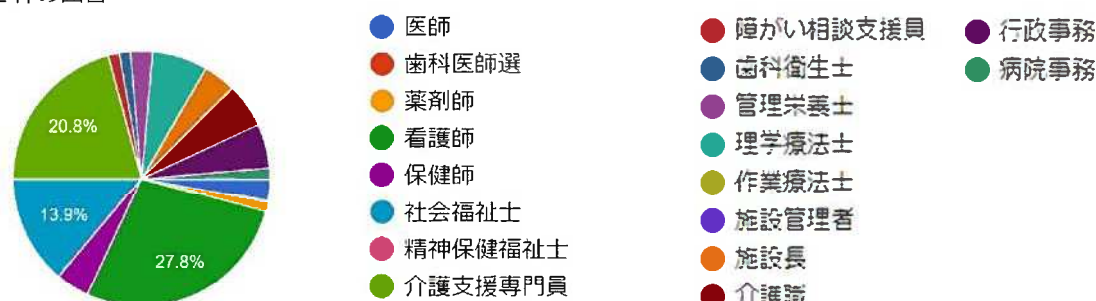
・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）

・回答者数 72名／125名（回答率：57.6%）

・アンケート結果

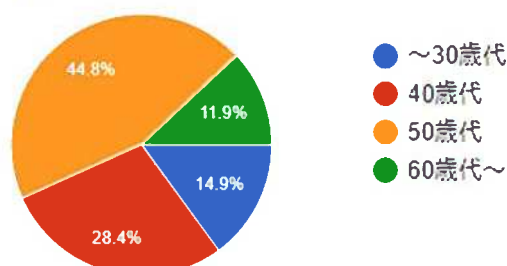
ご記入者の職種についてお伺いいたします。

72件の回答



ご記入者の年齢についてお伺いいたします。

67件の回答



本日の研修を通して得た、最も大きい学びや気づきについてお聞きします

最も大きい学び 気づきは何ですか？ どう実施されますか？（いつどのような場面で、
どうするか、など具体的に記載してください）

・最も大きい学びや気づきは何ですか

医師

- ・自分の弱さに気づく
- ・聴くこと

介護支援専門員

- ・エンドオブライフケアの目標について改めて考えることができました。どうしたら最期まで穏やかにいられるのでしょうか？この答えがわかる研修だったと思います。
- ・「人は一人では弱くても自分の事を認めてくれる誰かの支えになる関係が与えられると一転して強くなる」という言葉に力をいただきました。
- ・相手の苦しい気づく完成をみがく事ができました。
- ・穏やかに・・・を本人だけでなく、家族の周りの人という考え。相談や担当利用者がそのような場面の時に活用できたらと思います。

・支えるという事、支えられるという事。ウェルビーイングわかってくれる人に近づけるように成長することの大切さ。私たちのウェルビーイングを通して相手のウェルビーイングにもつなげることができる事ができること

- ・自分が苦しい時にどうやって乗り越えてきたのか（誰が支えになったのか考えた時のワーク）
- ・苦しい気持ちに気づく。解決できないこともある。
- ・エンドオブライフケア そんなに特別なことではないと思いました
- ・ウェルビーイングの意味するもの
- ・穏やかだと思える理由。苦しみにあう前は当たり前前大切なことを知らない。苦しみにあった後は1日1日大切に生きようと思う
- ・今まで対応してきた意思決定支援とのズレ
- ・人との関わり方。相手の苦しみに気づく。リ
- ・誰かの支えになろうとする人こそ一番支えを必要としています。ひとりではできない。弱さを認めること

・反復技法の効果

・エンドオブライフケアの目標は、本人、家族、関わる人が穏やか（ウェルビーイング）であること。苦しんでいる人は、自分のわかってくれる人がいるとうれしい。苦しみに気づくために、相手の希望と現実の開きを意識する。解決できる苦しみと解決できない苦しみがあるが、解決できない苦しみがありながらも穏やかになれるために、相手の頑張れる理由、支え（支えとなる関係、将来の夢、選ぶことができる自由）に気づき、援助する。

介護職

- ・家族や医師の話をも本人は聞いていて、本人のお話をする事で、穏やかに過ごすことができること。
- ・反復はオウム返しではない。オウムは顔かない。
- ・聴くこと。
- ・ウェルビーイング（穏やか）の意味

看護師

- ・相手が穏やかに笑顔になれるよう心がける事
- ・最期を迎える人や家族にとって重要なことは穏やかでいられることであり、それができる限り続くことだと最も理解できた。
- ・認めるという事はとても大変な事なんだと感じました。自分は認められたいと思っていても相手に伝わらない。気づきの大切さ、寄り添う事の大切さ
- ・本人、家族、援助者にとっての穏やかを考えること
- ・苦しんでいる人はわかってくれる人がいるとうれしい
- ・誰かのために、わかってくれる人に弱さを認めることができない自分の弱さに気づいた。
- ・失っていくことが多い終末期に、どうやって穏やかな気持ちで過ごしていただけるよう援助していくのか、声をかけていくのかを学んだ
- ・ACPは関わる全ての人が穏やかになるという事が目標という点
- ・最後は穏やかにするためにはどうしたらいいのかを考えること。
- ・ユニバーサルホスピスマインドという言葉を知ったこと。苦しんでいる人が穏やかになれるために私

達ができることを学べたこと。

- ・聴くこと反復することマイナスな気持ちも逃げずに聴くこと。逃げないこと弱い自分を認めその自分を受け入れること
- ・意思決定要支援の目標は人が穏やかである事。という言葉でした。また最後の言葉をどのように家族に伝え、伝え方をどのように言葉をかけるのかディグニティセラピーの手法
- ・ガムをふんでも想いや支えによっておだやかになる わかっているけど難しい
- ・エンドオブライフは「穏やか」であること。本当の力とは逃げないこと
- ・穏やかになれる方法
- ・聴くこと、想いに気づくこと ” 支え” 誰かのために
- ・全てのゴールは穏やか 利用者様だけでなく家族・医療従事者みんなが穏やかになれるようにしたい
- ・看取り期にある患者さんや家族への関わりの中で、ご本人の思いを聞くことができないときにどう穏やかに最期を迎えるように介入するかいつも悩みますが、先生におしえていただけた相手の苦しみに気づき聴き上手になり本人家族自分たちが幸せを感じる関わりが大切と気づきました
- ・人を支えているようで実は支えられているということ

管理栄養士

- ・ウエルビーイング＝穏やか。A D L やお金だけが幸せではない。幸せは人それぞれ。
- ・「穏やか」について。穏やかと思う事情や条件は変わる。人によって穏やかと思う理由は違う。

行政事務

- ・聴くこと
- ・本人にとって穏やかに過ごすことの重要性を学びました
- ・「穏やか」の大切さ 意味
- ・自分の苦しみをわかってくれる人がいるとうれしい

施設長

- ・穏やかである事。支える人になる事。苦しみに気づく事。
- ・相手の話を聴くことの大切さ。仕事の時、お年寄りの方と話し、新たな気づきがあります。
- ・穏やかであることの意味

社会福祉士

- ・どうすると穏やかに過ごせるのか？聴く心 とことん聴く 支えになること。
- ・分かってくれる人の意味
- ・別れはつらい。にげない。
- ・ディグニティセラピー
- ・支えがあれば人は苦しくても不幸でない。ということ
- ・聴くことの大切さ、自己の姿を自覚すること
- ・わかってあげる。気づくは難しい
- ・ウエルビーイングという意味が分かっているようでわからないことが多かったので今回の研修を通じて言葉として伝えることができるかなと思いました。
- ・苦しい気持ちを分かってくれれば嬉しい。反復することが難しい反対してしまいがちなマイナスの気持ちでも、『〇さん、～なんですね』と反復する聴く姿勢を持っていたい。苦しみに気づける人になりた

いと思います。

病院事務

- ・“苦しみ”は「現実」と「理想」のギャップ。その差を生む患者の思いに気付く事が大切。

保健師

- ・ 本当の力とは逃げないこと
- ・ well-being とは穏やかであること。
- ・ 穏やかになれること＝援助≠サービスをあてがうこと。支えとなる関係をつくる。本当の力とは逃げないこと、できない自分を認めること。

薬剤師

- ・ ウェルビーイングは穏やかと考える事。自分でもできるかもしれないと思えた事。

理学療法士

- ・ 誰かの支えになろうとする人こそ支えが必要
- ・ 誰かの支えになろうとする人こそ 1 番支えを必要としている、という言葉が印象的でした。人に優しくできる人が支えを必要にしているかもしれないという発想がいままでなかったです。
- ・ 穏やかと笑顔になることに重点をおくことを思い出しました。安全な方法、ADLの維持の方に目が向いていました。
- ・ 穏やか接し、聴くことの大切さ。
- ・ 人の最期に必要なことは穏やかであること。

・ 研修内容はどのように実務に役立ちそうですか

医師

- ・ はい
- ・ 支えになること

介護支援専門員

- ・ がん末期や疾病のある利用者様の苦しみ気づき穏やかに過ごして頂けるように傾聴して行きたい
- ・ 日頃の利用者さんとの関係性の構築をはじめ、本人の想いを聴けるようになると思います。
- ・ 利用者様の分かってくれる人になれるような関り方に役立てます。
- ・ ケアマネとして高齢の方も多く、ガン末期の方もみえるのでその場面で
- ・ 明日からの業務に役立てます。
- ・ 対人援助 人との対話において普段の生活の中全て
- ・ 本人の希望を聴く時に、言葉かけの方法がとても参考になりました。
- ・ どうしたら周囲の患者さんが穏やかな人生を送ることでできるか考えたい
- ・ 認知症の家族支援
- ・ 利用者への対応
- ・ 利用者との接し方。話し方や話題等。ほ
- ・ おだやかにすごせること。笑顔でおだやかにと思う時に本人・家族・仕事仲間とともに思うこと。
- ・ 日々の面談や訪問時
- ・ ポイントは、穏やか。いつもマイナスの気持ちを口にする方がいます。苦しみを解りたいと思っています

すが、まだ足りないと思っていました。その方は、確かに希望と現実の開きが大きく苦しんでおられます。解決できない苦しみで悩んでおられるので、その方が穏やかになれるよう、その方のお話を聴いていきたいと思います。「そうなんです！」と言ってもらえるように！

介護職

- ・ご利用者様への傾聴の姿勢
- ・共感、寄り添う、聴く力
- ・すごく勉強になりました
- ・相手の苦しみ気づく

看護師

- ・ターミナルの方への関わり、認知症の方との関りにおいて
- ・老いによる衰えて今までやれていたことがやれなくなって苦しむ人に対して苦しみをわかってあげれる人になることができればより思いに沿った支援に繋がれるように思う。
- ・まず訪問時時計をチラチラ見ないようにする。話をする時は、相手の目を見て傾聴する。この点は役立つと感じました。
- ・実務を超えて、今後の人生に役立つ内容でした。
- ・終末期の利用者さんに対して
- ・役立つ
- ・聴く姿勢
- ・終末期を援助することが多いため、相手に寄り添うこと、気にかけていますよと思ってもらいために、声のかけ方や聴くということが大切なんだと学び、事例で出た声かけを実践して行くと思う。
- ・相手の苦しみを話された時。メモはとりません。
- ・認知症や高次機能障害の方と接する時に参考にしたい。
- ・反復を実務で行いたい
- ・学び続けて行きたいと思う
- ・聴くことが大事 あらためて考えさせられる
- ・看取りの場面に会った時に役立つ
- ・苦しむ人から逃げず苦しみに気づく

苦しみの「解決できる」「できない」で分け、できないことには傾聴する「～ね。」

- ・仕事でも、プライベートでも
- ・対象者と話をするとき 家族と話をするとき 職場の人と話をするとき
- ・まさに何人かの関わりの中でマイナスな言動があったときにも相手の表情や思いに寄り添って返答していきたいと思います
- ・リアルな悲しみの中でも幸せに感じることを応援していきたい

管理栄養士

- ・患者さまとよりよい関係を築く
- ・傾聴に対して考え方が変わりました。栄養相談に生かします。

行政事務

- ・対人関係全般

- ・実務には直接役立たないかもしれませんが、人生において有益な内容だと感じました
- ・部下の指導やチーム力をあげるための手法として役立つ
- ・業務のみでなく生活全般に役立ちそう

施設長

- ・上記に同じです。相手の話を聴くのがとても大切だと思います。
- ・施設での看取り。日々の高齢者 家族との対話。
- ・おおいに役立つ。

歯科衛生士

- ・日常の患者さんとの会話に参考にさせていただきます

社会福祉士

- ・上手い出来ないこともあるが（クライアント支援、仕事、生活・・・）。希望をもって拘れずに活動すること。人と話すこと。
- ・どう寄り添うか
- ・今後地域包括に異動した際、高齢者（認知症の方）と関わる際によりよい関係をつくるのに役立つと思う
- ・訪問時に、相手の話を聴く時に役立てたい。
- ・笑顔でいること。ディグニティセラピー、もっと学びたい・深めたいと思う。
- ・看取りのケースは少ないですが立ち会うことはあるので今回の学びを活かしていきたいです
- ・職種を越えたつながり
- ・普段人と向き合うとき
- ・看取りのとき 利用者との日々のかかわりの中で
- ・ソーシャルワーカーとしては、全てです。

病院事務

- ・職員全員に「穏やかに過ごす」素晴らしさを知って欲しい

保健師

- ・相談業務、ケアマネ業務 理想（希望）と現実の相違の把握。

理学療法士

- ・全ての対応時の心持ちに、役立ちます。
- ・緩和ケアチームとして自分の担当患者以外を回診する際にも今回の視点から何か新たな発見をすることができるかもしれないと思います。それを担当者に伝えることができる。
- ・役に立ちます。
- ・選べる自由、きくこと、思いを大事にしようと思いました
- ・リハビリ中にお話を聞くことが多いので、訓練をしながら聴きたい。
- ・研修を受けて、実務において何を実践しますか

医師

- ・がんばります
- ・易しく説明すること

介護支援専門員

- ・ 本人支援と家族支援
- ・ 訪問時の話し方や聴く事等、苦しみ等、過去の出来事等、色々な話題等。
- ・ 利用者様の訴え時に聴き方を実践していきます。
- ・ ケアマネとして高齢の方も多く、ガン末期の方もみえるのでその場面で
- ・ どうしたら相手にささえとなってくれる人と思っていただけるか努力したい。
- ・ ウェルビーイングの実践においては自身がウェルビーイングを感じることに。それを周りに伝える。
- ・ 単なる課題解決でなく、本人や家族がおだやかになる方法を見出すことや穏やかな状態を受け止めること
- ・ 人の話を聴くこと
- ・ ウェルビーイング、終活に興味があるので、もっと勉強していきたい。そして、地域の高齢者の想いを聴けるような私になりたい。
- ・ 心と時間にゆとりを持って業務にあたりたい
- ・ 相手の苦しみに気づくこと
- ・ 人の苦しみを少しでもわかりたい
- ・ がん末の方や看取り期に入られた方への声掛けや寄り添い方
- ・ 苦しむ人の力になれなくても、逃げずにそばに続ける実践者をめざします。

介護職

- ・ 聞いた話に対し、「～ですね」と反復しながら分かってくれる人だと思っていただけるようにしたいです。
- ・ 語尾は「ね」で終わる
- ・ 利用者様のお話を聴くこと。この人なら、話せるという雰囲気作りをしたいと思います
- ・ 相手の苦しみ気づき、相手の苦しみを理解し、何かあれば穏やかに過ごしていただけるのかを探し出したいと考えます。

看護師

- ・ 関わり方、訴えを聞く時
- ・ 介護保険サービスに繋げることに重きを置くのではなく、本人や家族にとって穏やかで過ごすことのできる支援を考えるようにする。
- ・ 関わりや対話において相手の苦しみを理解しようとする。相手からみて、わかってくれる人になるために聴く。
- ・ 以上2点をベースに会話や態度等話を聴く大切さを知りました。「話し上手は聞き上手」まさにです。
- ・ 聴く事、笑顔を作っていく事（自分も自分以外も）
- ・ ディグニティセラピーを実践していきたい。
- ・ 相手が苦しみを話された時は「ね」を使って反復してみる。
- ・ 語尾をねで終わる話し方
- ・ 聴くこと
- ・ 聴くこと 穏やかを大切にすること
- ・ ディグニティセラピーや苦しみを聴く姿勢をもつ
- ・ 自分の弱さ無力さを知り利用者と向き合う。職業人ではなく人間と人間の関わりとして実践していく

たい。

- ・前にいる人の苦しみに気づくように心がける にげない
- ・聴くこと
- ・支えになるために聴いて人のために動きたい
- ・傾聴する時の注意点。おうむ返しではなく反復する事。
- ・ウェルビーイングがどんな場面においても共通のテーマで看護したい
- ・聴くこと、関心をもつことが大事

管理栄養士

- ・今まで以上に傾聴を意識する。会話をしている方の表情を意識する。

行政事務

- ・聴くこと、共感すること
- ・相手への話し方
- ・対人の全て
- ・相手の話を聴く

施設長

- ・聴く力をつける
- ・相手の話し、相手の思いを1つでも多く知りたいと思いました
- ・分かってくれる人でありたい。

社会福祉士

- ・ACPの普及啓発にて伝達できるかなと思いました
- ・まずは自分のグループメンバーに伝える。看取りの支援現場、ACPをする時に今日の学びを活かしたい。
- ・自分の仕事に自信をもつ（もてる）これでいいできない自分を認めてくれる（認める人）になる
- ・施設で看取りをしています。その時だけでなく今いる利用者さんにも色々話を聴く。この人は頼りになると思える人になりたい。
- ・反復。苦しみをわかろうとする。
- ・不安や困難を抱えた利用者に向き合うときの心構えを持つ
- ・聴く、反復する
- ・反復
- ・聴く、反復する姿勢を持って接することを実践します

病院事務

- ・「解決できる苦しみ」と「解決できない苦しみ」を分ける。解決できる苦しみを解決する

保健師

- ・お相手の負の感情の表出に対して、否定するのではなくただ受け止めること
- ・傾聴、反復、苦しみに気づき、わかろうとする姿勢を大切にすること。
- ・マイナス要素がある中でその方が穏やかと感じられる条件を把握する。わかってくれる人になる

理学療法士

- ・部下の1 on 1 時に実践したい。

- ・まずは反復から始めたい。
- ・話を聴く
- ・押し付けない、聴く力。
- ・オウム返しでなく、間や名前を呼んで対話したい。

・学んだこと、やろうとしていることに障害はありますか。それはなんですか

医師

- ・時間
- ・今はない

介護支援専門員

- ・母親の介護をしながら仕事をしているので時間が足りないと感じる
 - ・自分で相手を苦手と思っている事。
 - ・継続した学びが重要だと感じました。研修費が思ったより高額でした。身近な場所（豊田市内）と安価な価格で学び続けられる環境があるといいと思います。
 - ・自分の思いようでできることはあると思いました。障害はないと思います
 - ・テーマを決めて、講座をやっていきたいと思う。同じ想いの人たちとの今後の出会いを求めています。
- いつかはイベント開催を夢見てます。

- ・できない事への返答に困るように思いました。
- ・大きな障害は感じません。自部がネガティブなところ
- ・無し
- ・特にありません。
- ・ありません
- ・ないです

介護職

- ・介護保険制度（傾聴することができない）
- ・何かをしながらなので、十分に利用者さんに寄り添う事ができない。
- ・市独自の横出しサービスなどあればいいなと考えます。（見守り等）
- ・特にないです

看護師

- ・まだまだ勉強が足りなく、本人や家族、そこに関わる多職種が穏やかになれるためには、私たち訪問看護師はどのようにサポートしていけばよいか、みんながまとまるためにはどうしたら良いか。
- ・自分の死生観も人生経験も少なく、そんな自分が人生に大先輩らどのように接していけば良いかわからず、その時の重い空気が絶えれなく、見取りはまだ怖いという気持ちが障害になっている。
- ・まだまだ知識や経験が足りないこと。
- ・向き合う時間をつくりたい。つくっていく。
- ・せっかく良い学びを得られても、繰り返し学ばなければ深まらないのは理解できるが、現実には日々の業務をこなすのに精一杯であり機会を持ってないことが障害になると感じている。
- ・色々な介護背景やご家族の社会的立場もあり自宅看取りにおいては本当に本人にとって穏やかなのか

立ち止まり話し合う場をもつことがむずかしいと感じています。その都度経験からご本人の思いを代弁して家族に伝えたりしていますが仕事中的こともあり連絡手段などむずかしさも感じています

- ・振りかえる時間がない（次々やることがあり前に進むしかない）
- ・忙しさ
- ・時間におわれている
- ・ないです。やってみようと思います
- ・分からない
- ・なし
- ・特にないと思います
- ・なし
- ・障害はない

管理栄養士

- ・時間的制約（特に傾聴）
- ・特にありません。本日はありがとうございました。

行政事務

- ・意識しないで過ごしてしまうこと

施設長

- ・とにかく話を聴く（相手を知る）ことを大切に思うことがとても大切です
- ・障がいはない。やらない理由もない。
- ・障害はないと思います。もしあるとすれば自分自身のやる気

社会福祉士

- ・浸透には時間がかかる。それも心折れずに地道にやっていくと良いのかな
- ・多くの人たちと情報共有することが大切で、でもやりきれないこともあるかなと思います
- ・否定する私
- ・折れやすい自分の心
- ・『困っていることはない』と拒否された時など、心が折れそうになる自分の気持ち。
- ・個別支援をしながら地域とどう関わる事が出来るか。
- ・障害はなにもない。苦もまた楽なり
- ・特に今のところないと思う
- ・特にない

保健師

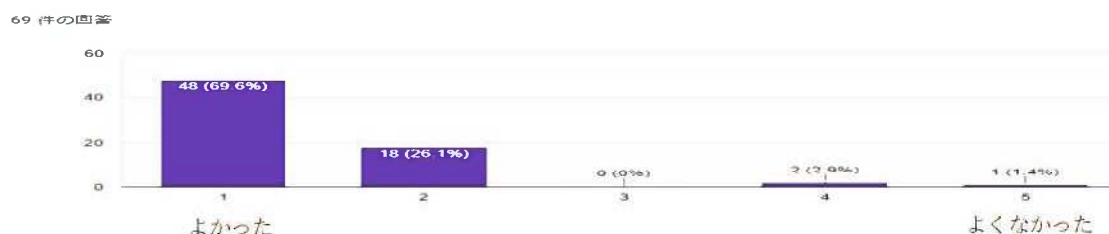
- ・経験の少なさ
- ・マイナスな言動ばかりを向けられると、支援者としてのあるべき姿勢を保ちにくいことがある。自分自身もマイナスな面に引き込まれてしまうことがある。

理学療法士

- ・やはりこの反復の時間を実際に作ろうとすると、お金にならない仕事であることを上司から指摘されやすい。
- ・日々の忙しさ

- ・勤務時間
- ・業務が多い為、リハビリが休みになってしまうことがある。
- ・無い。

本日の内容の理解度はいかがでしたでしょうか？



その理由について記載してください。（難易度/時間/資料など、具体的に記載してください）

医師

- ・話しのトーン、具体性

介護支援専門員

- ・とてもわかりやすいお話で楽しかったです。理解しやすかったです。
- ・先生のご講話がとてもわかりやすく良かった
- ・とてもわかりやすお話でした
- ・沢山の事を伝えようとして頂いたため、もう少しじっくり聞きたいと思いました。
- ・資料も分かりやすく、講演がとてもきやすかったです。
- ・これからやって行くことがよくわかったから
- ・自身の経験にてらし合わせて聞いた。理解しやすかった。歌など印象に残るものを使ってみえたのでわかりやすかった。記憶に残りやすい

介護職

- ・研修内容が、面白く内容がしっかり理解できました
- ・具体的なケースなども織り交ぜてくださっていたので、想像がしやすかったです。

看護師

- ・言葉が理解しやすかった 子どもに授業をしている分わかりやすいと思った
- ・分かりやすくとても楽しかったです。まだまだ聴きたい。1日研修でも足りないくらいでした。
- ・理解できたと思いますが、できていないかも・・・その人の穏やかな人生（最期）を迎えるための方法を少しつかめたと思っています。
- ・歌や分かりやすい言葉で表現され分かりやすかった。後半少し早足の部分があったので、ゆっくりききたかった
- ・歌を交えての講義であった
- ・資料が大変わかりやすかった。講師の先生の話し方や内容がとても興味深く惹きつけられた。
- ・とてもわかりやすかった
- ・ウェルビーイングの初級というか基礎としてはとてもよかった。もっと深く知り、学びたい。

- ・先生がとても分かりやすく、ゆっくりと話をしてくれたので良かった
もう少し時間がほしかった。
- ・全体をすべて理解したと思えないため
- ・歌やビデオ具体例を織り交ぜながらとてもわかりやすかった。引きこまれる様な講演だった。
- ・難解な言葉を一切用いられることなく、誰にでも理解できるようにポイントを明確にして説明してくださったと考えるため。
- ・資料や歌を交えた講義が分かりやすかった。
- ・時間が足りない。もっと聞きたかった
- ・具体的に歌で強調していただいたのでよくわかった

管理栄養士

- ・2時間でもすべてでは理解することが難しかったです
- ・平易な言葉を使ってご説明頂いたから。テーマ毎に振り返りをして下さったから

行政事務

- ・話がとても分かりやすく、興味深い内容であった
- ・一度での理解力が足りていない
- ・説明、資料ともわかりやすかった

施設長

- ・老眼で若干資料が見にくかったが、配布資料があることで振り返りが出来て良いです。
- ・わかり易い内容や音楽の引用などがあり良かった

社会福祉士

- ・先生の説明が丁寧で具体的で理解しやすかった
- ・資料もしっかり手渡して頂きました。音楽やワークを織り交ぜていただき、充実した時間を過ごすことが出来ました。
- ・誰でも分かりやすい表現で、と先生が言われた通り、とても分かりやすく理解がありました。
- ・音楽という身近なもので説明してくださりとても理解しやすかった
- ・お話がおもしろく2時間があったという間でした。ウェルビーイングは個別性が強いと思うので、経験値も必要かと
- ・とてもわかりやすく話して下さり資料もあったので振り返りもできる

病院事務

- ・理解するのに時間が足りなかった

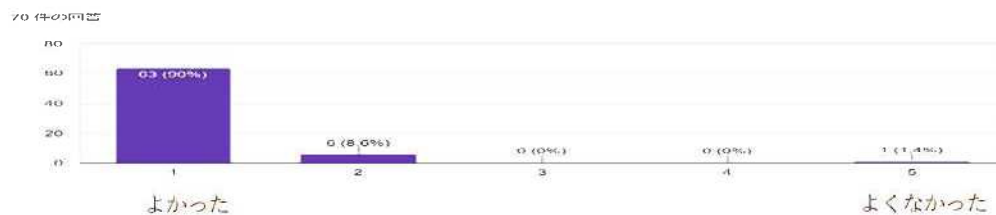
保健師

- ・内容が深く消化に時間がかかります。

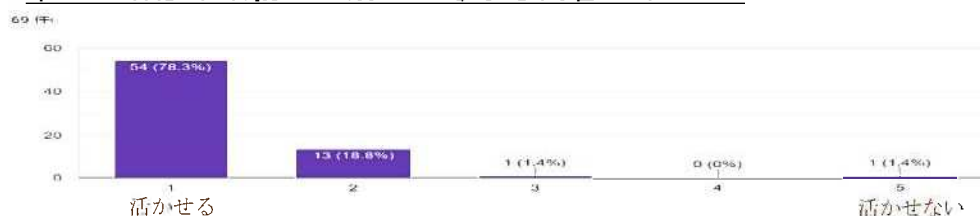
理学療法士

- ・歌や例えが多かったので理解しやすかった
- ・実際に自身で考えながら講義が進むことで理解しやすかった。
- ・非常に理解しやすく、引き込まれた。

研修全体の進め方はいかがでしたか。



本日の研修は業務上で活かせるような内容でしたか?



その理由について記載してください

(研修内容/ご自身の業務特性など、具体的に記載してください)

介護支援専門員

- ・ひとつずつ私たちが行う態度が穏やかにつながると理解できた。やれることからやればよいと思えました。
- ・利用者や家族との面談の中で活かせると思います。
- ・訪問時の話し方や聴く等。
- ・認知症高齢者の関わり方に活かしていきます。
- ・仕事の他、自分がどのような役に立てるかずっと考えていました。力をいただけたことで前に進めます。

介護職

- ・私は介護士ですが、利用者様の1番近くにいる存在だと思っています。利用者様の、声をしっかり聴いていきたいと思っています
- ・職種上、本人やご家族様とお話することが多いため。
- ・人をつなぐ社協の業務において、本日のテーマ「仲間を増やす」は素晴らしい提案でした。

看護師

- ・誰かの話をきくことが仕事だから
- ・苦しみをわかってくれる人として相手に心を開いてもらえる関わり方を知り、身につけられると思ったため。
- ・傾聴、共感が大切を再認識した
- ・活かせる内容であると思うが技術も必要と思うため
- ・訪問看護をしています。在宅で看取るまでに本人や家族がこれでよかったんだと思える言葉かけに悩んだりしていました。先生の講義をうけてディグニティセラピーを知りました。自然にやっていた事かもしれませんがし上手くできない事もあるかもしれませんが人生で一番辛い局面で私ができる事であれば少しでも穏やかにすごせるように介入していきたいと思いました。
- ・できそうでできない事だけれど、今すぐ活かせる事

3 部会①企画研修会

「老い・病と共に生きる」

～緩和ケア・看取り～

ウェルビーイングを叶える 看取り期における多職種連携

令和5年

10/28 (土)

14:00~16:00



【部会①】「老い・病と共に生きる
～緩和ケア・看取り」

メンバー

長沼 隆輔: 豊田市特別養護老人ホーム施設長会議

名取 彩実: 愛知県医療ソーシャルワーカー協会

西三河北部ブロック

久野 杜紀子: (みよし市) 訪問介護

井戸 登姿美: (みよし市) 訪問看護

大井 由香里: 豊田市介護サービス連絡協議会

ケアマネジャー部会

花見 雅子: 愛知県老人保健施設協会

松井 訓代: 豊田市介護サービス連絡協議会

訪問看護部会

殿内 勝夫: 豊田市自立支援協議会

兼松 富美子: 豊田加茂医師会

豊田加茂ウェルビーイングネットワークでは
病気や障がいがあっても、誰もが自分らしく
生きることを支えることができ、認知症や、人
生の最終段階においても、本人が、本人らしい
選択ができ、尊厳をもって人生を全うすること
ができる地域となることを目指します。



メンバーの声

「どう看取るか」

ではなく、

「どう生きるか」

を考える研修になれば
と思います。

会 場

豊田加茂医師会館2階講堂とオンライン (Zoom)
豊田市西山町3丁目30番地

講 師

みよし市民病院 事業管理者 成瀬 達先生

研修概要

講演 「看取り期の身体的精神的变化を知る」
グループワーク 「事例検討」

申込方法

別紙申込書にて、メールまたはFAXでの申込み
(令和5年10月13日まで)

問合せ先

豊田加茂医師会 事務局 ☎0565-33-7773 兼松・那須

参加費
無料

日時：令和 5 年 10 月 28 日（土）14 時～16 時

場所：豊田加茂医師会館 2 階 講堂

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

部会①「老い・病と共に生きる～緩和ケア・看取り～」企画研修会

「ウェルビーイングを叶える 看取り期における多職種連携」

進行 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一
部会① 副部長 名 取 彩 美

開会・挨拶 豊田加茂医師会 会 長 加 藤 真 二

講演 （14 時 10 分～）

「看取り期の身体的精神的变化を知る」

みよし市民病院 事業管理者 成瀬 達 先生

質疑

事例検討 （14 時 45 分～）

・事例説明（3 分）

・個人ワーク・グループワーク説明（2 分）

～オンラインの方 ブレイクアウトルームへ移動～（14 時 50 分～）

・グループで自己紹介＋最近嬉しかったこと（お一人 30 秒）（3 分）

・個人ワーク（5 分）

・グループワーク（20 分）

全体共有（15 時 18 分～）

ウェルビーイングを大切に支援した事例発表（15 時 30 分）

訪問看護師として（5 分） 豊田市介護サービス連絡協議会訪問看護ステーション部会
松 井 訓 代

高齢者施設として（5 分） 豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会
長 沼 隆 輔

障がい相談支援員として（5 分） 豊田市地域自立支援協議会
殿 内 勝 夫

講評（15 時 50 分） 部会①アドバイザー

豊田加茂医師会 地域医療介護委員会 渡 邊 真

部会長挨拶

部会① 部会長 長 沼 隆 輔

挨拶

豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一

閉会 16 時 00 分

豊田加茂医師会会員の先生方へ：本研修では、日医生涯教育制度 2 単位（カリキュラム

コード：「13 医療と介護および福祉の連携」1 単位「80 在宅医療」1 単位）、を取得していただ

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

【部会①】「老い・病と共に生きる ～緩和ケア・看取り～部会」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和5年10月28日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（ZOOM）
- ・テーマ 「ウェルビーイングを叶える 看取り期における多職種連携」
- ・講演 「看取り期の身体的精神的変化を知る」
講師：みよし市民病院 事業管理者 成瀬 達 先生

・参加者 88名

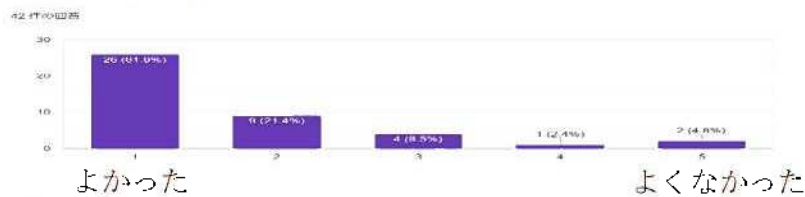
（内訳）医師8名、歯科医師1名、薬剤師2名、看護師23名、訪問看護12名、保健師5名、作業療法士1名、理学療法士6名、管理栄養士3名、MSW4名、介護支援専門員17名、社会福祉士9名、生活相談員2名、相談支援専門員3名、施設管理者1名、施設長2名、施設職員（入所）2名、介護職員1名、通所介護1名、訪問介護1名、介護士2名、歯科衛生士1名、名古屋医専 教官1名、行政12名、事務職4名、病院事務1名

- ・企画運営 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会①メンバー 9名
アドバイザー 2名
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 43名／88名（回答率：48.7%）



【アンケート結果】

(1) 本日の研修の満足度について



(2) 研修を通して、最も大きい学びや気づきは何ですか。

医師

- ・皆で学べて、共有できることが大切だと気付きました。
- ・本人の想いが大切
- ・地域の医療・介護・福祉の状況が理解できた。

介護支援専門員

- ・職種毎の視点のちがいと、支援方法。自分にはない本人の思いへの感じ方があることが良くわかった。
- ・看取りの支援について、本人や家族の思いを理解した上で、最期までどのように支援していけば良いか考えさせられました。
- ・本人が希望を最後まで持ち続けていけるようにしていくことが大切
- ・多職種連携と家族の不安軽減の大切さ
- ・多職種で、それぞれの職種での知識や経験を活かしていく大切さを再確認しました。
- ・看取り期の寄り添い方
- ・看取り期の本人への支援はもちろん家族への支援もチームで行うことが大切と理解していますが、情報共有から信頼を得て活動することは、すぐにというわけにはいきません。都度本人や家族の意思を確認しながらという姿勢が大切であると学びました。

介護職

- ・援助の方向性を考える際に、ご本人の言葉を丁寧に拾いあつめて、とことんまでご本人の真に希望することを明らかにし、関わっている皆でその方向性を共有する必要性。
- ・幸福を意味するウェルビーイングの意味・看取中での本人の想い
- ・最期を迎えるまで本人の希望に寄り添って、穏やかに笑顔に過ごせるようにどういった支援ができるのか。8050 問題についてどう取り組んでいくのかという気づきを得られました。

看護師

- ・先日の講演会から引き続き、どんな時も穏やかにいられることの大切さを学びました。病気＝不幸ではなく、それでも幸せを感じ穏やかにいられるかどうか。。。とても大きいと思いました。
- ・職種による着眼点の違いの面白さ
- ・その人の大切にしている事は何か？それを最後まで支えて行えるような関わり
- ・看取りにおいて多職種連携はかかせない。
- ・地域の中で老い病いがあってもその人らしく生活できるために多職種でのアプローチなしでは実現できないため、その一員としていきたいです。
- ・ウェルビーイングの実施には ACP の必要性や家族のウェルビーイングの必要性が重要である。
- ・本人の望むこともですが介護する家族が望むことも支援することが重要

管理栄養士

- ・在宅介護には多職種連携が必須であること。

行政事務

- ・本人の不安や恐怖を減らす、という視点が大事であること。それが、穏やかに生きることに繋がると思う。

- ・人の人生の最終段階にかかわる者の連携が重要
- ・多様な本人意思の確認と尊重。家族・専門職等の連携。

施設管理者

- ・本人の思いと同時に家族の支援も行っていく事。家族も支える事で、本人の想いを一緒に支えていけるようにする
- ・ウェルビーイングを大切にし、実践していくこと
- ・他職種チームの皆が本人と家族の思いを大事することの大切さ。

歯科衛生士

- ・本人と家族の聞き取り

社会福祉士

- ・本人のやりたいことを多職種が共有することで「本人の思い・希望に繋ぐことができる」ことを学びました。
- ・死はその時だけでなく、事前事後も考えなければいけないこと。
- ・普段からのアセスメントの積み上げが大切だと改めて気付かせていただきました。
- ・専門職として、本人・家族の想いを聴くこと、よりよい最期を迎えるために、この人やこの家族にどう支援していくか、多職種でかかわっていくことの大切さを学んだ。最期に携わることは、専門職としても大きな経験である。それを共有できる多職種の関係性づくりは、日々必要であると思った。

保健師

- ・現場で集められた亡くなるまでの変化とそのデータが業務で間接的に感じていたことと同じだったこと。現場専門職の苦労と工夫。
- ・死は一時ではなくプロセスということ
- ・多職種連携により、本人・家族の心身の段階に応じた支援方法を検討することが重要。

理学療法士

- ・ご本人、家族の思いをしっかりと把握する。
- ・1人で抱え込まず多職種で関わる事の大切さを今一度感じました。
- ・ウェルビーイングの考え方を多職種連携に活かすこと

作業療法士

- ・他の専門職の方は気づくポイントが異なる。同じ専門職でも勤務地が違っていると気づくポイントが異なる。

(3) 研修の内容はどのように実務に役立ちそうですか

医師

- ・今後少しでも生かしたいです。
- ・今日からの往診

介護支援専門員

- ・看とりケースは少ないので、グリーフケアを大切にして、自信を持って仕事を続けるために時間がとれれば、家族と支援でかかわった人全員で話し合う機会づくり。
- ・支援させていただく上で、本人や家族の思いや気持ちをどんな視点で捉えると良いか参考になりました。
- ・本人だけでなく支援者のウェルビーイングも必要なこと
- ・本人のみではなく家族へのフォローこそが本人への支援につながる
- ・介護保険サービスだけではなく、本人、家族の思いに寄り添える方法はないか、広い視野で考えていきたいとします。
- ・本人、家族の思い、背景を今まで以上に意識する

介護職

- ・ヘルパーとしては、その方の希望の何を汲み取ってケアマネ、サ責がサービスを組んだかをより意識しながら、ご本人の言葉や表情に気を配りながら実務にあたりたいと思う。
- ・看取りケアを行う際に本人・家族の想いの尊重
- ・訪問介護として、多職種連携し本人が幸せだったなと感じていただけるような支援が出来たらいいなと思います。

看護師

- ・当事者、家族と共に考え共感し、寄り添っていけると良いと思った。
- ・今後訪問看護も始めますので、実際に看取りの患者様がいらっしゃった場合、学んだ事を実践で生かせるようにしたいです。
- ・ディスカッションの際
- ・とても役に立った
- ・看とりの場面ではその人の思いをどれだけ知り引き出せるか、それが関わりにつながると思うので役立てたいです。
- ・多職種でのミーティングに活かしていきたい。
- ・グループワークで、いろいろな職種の方々からの意見がある事、いろいろな方面からの意見がある事を実際に聞く事ができました。
- ・ACP をすすめていく上での話のなかで住民や利用者との対話

施設管理者

- ・看取りのタイミングなど、多職種連携と情報共有の仕方
- ・事例発表やグループワークもあり、ウェルビーイングを尊重し多職種で共有することはとてもいい事に思う

歯科衛生士

- ・高齢者の看取りは経験があったが、8050 問題の事例がとても良かった

社会福祉士

- ・看取りになるまでの間にどのようにして老いを迎えるかを現在進行形で本人や家族に伝えることができるかなと思いました。
- ・専門職間でも自分はこう思うという言ことを積極的に多職種と共有した方が良い
- ・ウェルビーイングの視点を持って実務をしていきたいと思います。
- ・意識レベルで役立つと思います。また、多職種のかかわりの強化を意識して行っていきたいです。

保健師

- ・現在は現場に出ていませんが、相談などがあれば聞き学んだ工夫や対応策を伝えたいと思います。
- ・ACP をどのように推進するかを考える際に多職種のかかわり方が少し見えた気がします。
- ・看取り対象者への事例に展開し、サービス担当者会議等で多職種で共通の認識を形成すること。

理学療法士

- ・情報共有が他職種連携で必須なので、実務に生かしたい、伝える、情報を各部門から得る。
- ・普段からの業務でも、対象となる方がたくさんおられますので、念頭に置いて取り組んでいきたいと思います。

作業療法士

- ・多職種連携は大事と改めて感じました。

行政事務

- ・市や包括支援センターに来る全ての相談、自分自身の家族に対し。
- ・それぞれの立場でできることを見出す努力が必要
- ・ACP の普及施策。終末期の実情にあわせた事業。

4 部会②企画研修会

「食べる」

～歯科口腔ケア・嚥下・栄養～

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
【部会②】企画研修会

最期まで自分の口で食べるを支える

多職種連携

【部会②】食べる

～歯科口腔ケア・嚥下・栄養～

令和5年
12/2 (土) 参加費無料
14:00～16:00

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
では、病気や障がいがあっても、誰もが
自分らしく生きることを支えることがで
き、認知症や、人生の最終段階におい
ても、本人が、本人らしい選択ができ、尊
厳をもって人生を全うすることができる
地域となることを目指します。

【部会②】メンバー

川瀬 文哉	(豊田市保健所管内栄養士会)
浅野 富美子	(豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会)
松井 恵美	(愛知県歯科衛生士会豊田みよし支部)
鈴木 順子	(豊田市介護サービス連絡協議会訪問介護部会)
近藤 千尋	(愛知県老人保健施設協会)
和田 明美	(みなみ福寿園地域包括支援センター)
小川 直子	(豊田市療法士会)
肥田 法美	(みよし市ケアマネジャー)
立花 望	(みよし市デイサービス)



会 場

豊田加茂医師会館2階講堂とオンライン (ZOOM)
豊田市西山町3丁目30番地1

研修概要

講演 「終末期の食べる機能の変化について」
講師 足助病院 麻酔総合内科 医長 長橋究先生

事例発表 病院・在宅・高齢者施設での多職種のかかわり方と
連携について
発表者 歯科医師・特養施設長・歯科衛生士・管理栄養士

申込方法

オンラインまたはFAX

主催 豊田加茂医師会

問合せ先 豊田加茂医師会事務局 TEL:0565-33-77

日時：令和 5 年 12 月 2 日（土）14 時～16 時
場所：豊田加茂医師会館 2 階 講堂 と オンライン

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
部会②「食べる～歯科口腔ケア・嚥下・栄養～」企画研修会
「最期まで自分の口から食べるを支える多職種連携」

進行 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一
部会② 部会員 近 藤 千 尋

開会・挨拶 豊田加茂医師会 会 長 加 藤 真 二

講演 （14 時 10 分～）
「終末期の食べる機能の変化について」
足助病院 麻酔総合内科 医長 長橋 究 氏

事例発表 （14 時 45 分～）
「病院・在宅・施設での多職種のかかわり方と連携について」

豊田加茂歯科医師会 会長	田 代 和 久 氏	(15 分)
豊田市保健所管内栄養士連絡会	川 瀬 文 哉 氏	(15 分)
愛知県歯科衛生士会 豊田みよし支部	竹 下 裕 子 氏	(15 分)
特別養護老人ホーム施設長会	浅 野 富美子 氏	(15 分)

質疑・部会②アドバイザー講評（15 時 45 分）

挨拶（15 時 57 分） 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一
閉会（16 時 00 分）

豊田加茂医師会会員の先生方へ：本研修では、日生涯教育制度 2 単位（カリキュラム
コード：「13 医療と介護および福祉の連携」1 単位「80 在宅医療」1 単位）、を取得していただけます。

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

【部会②】「食べる～歯科口腔ケア・嚥下・栄養～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和5年12月 2日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（ZOOM）
- ・テーマ 「最期まで自分の口で食べるを支える多職種連携」
- ・講演 「終末期の食べる機能の変化について」
講師：足助病院 麻酔総合内科 医長 長橋 究 先生

参加者 164名

（内訳）医師12名、歯科医師4名、薬剤師4名、看護師20名、訪問看護師3名、看護職1名、作業療法士13名、理学療法士15名、言語聴覚士10名、栄養士18名、MSW7名、介護支援専門員22名、社会福祉士4名、生活相談員2名、訪問介護10名、歯科衛生士7名、公認心理士1名、管理者4名、行政5名、事務2名

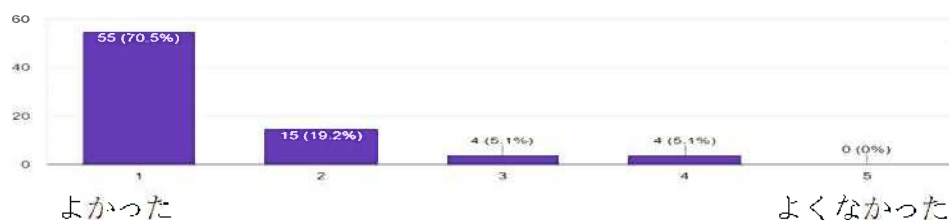
- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 80名／164名（回答率：48.8%）



【アンケート結果】

(1) 本日の研修の満足度について

78 件の回答



(2) 研修を通して、最も大きい学びや気づきは何ですか。

- ・ 食べることの楽しみや重要性。
- ・ 食べることを栄養から楽しみへの切り替え。
- ・ 食べることの効果と重要性。終末期においても「食べる」ことは利用者さんのモチベーションに強く関与することである。
- ・ 食べることに對する本人の希望や気持ちに如何に寄り添えるかを学ぶことができました。
- ・ 食べることについて 栄養状態を保つためと本人の食べたいと思う気持ちを大切にすること。
- ・ 最後への着陸態勢。楽しみとしての食べるということ。終末期ではどれだけ本人や家族の思いに付き添えられるかが重要になること。
- ・ 訪問歯科の依頼方法と歯科衛生士の活躍。
- ・ 訪問歯科が ACP にどのように関連するか。
- ・ 終末期での食事について、根拠を学んだ上で情報共有に努めていきたい。
- ・ 胃瘻の方の歯のトラブル
- ・ 終末期=食べられないはあたりまえ。食べたいものを、食べたいときに、食べたいだけ→意通理解（家族をく含めて）
- ・ 安全に食べるだけでは足りない。食べたい気持ちにもう少しよりそいたい。
- ・ 終末期における食事の効果と重要性。
- ・ 本人の望む形に寄り添った支援。
- ・ 食べることの大切さ。最期まで本人に寄り添った口から食べる支援を行うこと。
- ・ 患者・ご家族と各職種の情報共有が大切であると改めて感じた。
- ・ 食べさせる、食べないと、でなく、本人の選択に沿うための支援が広がってきていること
- ・ 本人の希望に寄り添い、リスクをふまえながらも他職種で取り組むところ
- ・ 本人の想いを中心に他職種チームの連携をすることの重要性の再確認。
- ・ 終末期だとしっかりと判断できる事で、PEG、N-G チューブ、TPN、PPN 等での対応ではなく、老衰で死亡 ENT が前向きに検討できる。
- ・ 多職種連携の大切さ。
- ・ 患者、家族と各職種の情報共有の重要性。
- ・ ウェルビーイングについて、ご利用者様個々の対応があって良いことを再認識できました。
- ・ 多職種の考え方が学びはとても有効だと思いました。
- ・ 終末期は学べる事は栄養のためではないこと。最期まで食べる楽しみの大切さ
- ・ 点滴の意味（必要性）家族に言われると医師に点滴の指示をもらうのがあたりまえと思っていた。今後は必要性を説明出来る様に勉強していく。
- ・ 安全に口から最後まで食べられるには、口腔ケアが大切であると思った。→口腔ケアは最後まで行うことができる。

- ・患者様、家族の思いを大切に、支援するためには多職種で共有することが大切だと思った。
- ・複数の Dr が客観的な情報（動けない、喋れない、食べれない）を基に回復が期待できないと判断すること。この情報（チームで関わるのが大切）と患者、家族、Dr、Ns 等が納得することが定義。
- ・悪液質における栄養管理のギアチェンジ。
- ・栄養摂取ではなく、楽しみも支える食支援について改めて気づくことができました。

（３）研修の内容はどのように実務に役立ちそうですか

- ・人生の最期において食事は楽しみとして無理せず食べさせるのではなく食べたいものを食べたい時に食べたい量を摂取することを家族とも共有する。
- ・終末期のご利用者様について考えを切り替える。患者さん本人、ご家族の希望をくみとる。
- ・症例報告を含め実践的であったので、とても参考になった。
- ・食べるために必要な多職種連携。理学療法士の場合は、姿勢や呼吸、座位の耐久性など、重度の患者であってもアプローチすべきものである。
- ・多職種との連携。ニーズに対して対応する引き出しが増える。往診歯科のつながりがわかりやすくなりました。
- ・多職種連携において、栄養状態を支える時期、食べるを重視する時期にやるべきこと。口腔ケアが重要性の周知に役立つと感じた。
- ・口から食べる環境づくり。
- ・現在は自宅で要支援の５の夫の介護をしている。今は胃ろうでの栄養と全介助でお楽しみ程度に食事はできているが、状態が悪くなり食べられなくなる過程が分かり参考になった。
- ・“患者さん本人、ご家族の希望をくみとる。
- ・症例報告を含め実践的であったので、とても参考になった。
- ・終末期に入るまでの食事のあり方。多職種で協議することで、アイデア出しができる。はい役立ちます。
- ・多職種連携、情報共有。終末期のケースのアセスメントに生かせると思います。
- ・昨年在宅で父を看取りました。改めて家族と本人が望む看取りが出来ていたことがが納得できたことで、心が穏やかに過ごせそうです。私事で実務とは関係ありませんが…。

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
部会②「食べる～歯科口腔ケア・嚥下・栄養～」活動報告書

1. 活動日程

日程	検討内容	開催場所
6月15日	全体会(キックオフ)	豊田加茂医師会館
7月12日	企画内容の具体化	豊田加茂医師会館
8月2日	企画内容検討・講師等検討	豊田加茂医師会館
9月6日	企画当日の打ち合わせ	豊田加茂医師会館
10月2日	企画当日の打ち合わせ	web
12月2日	研修会	豊田加茂医師会館

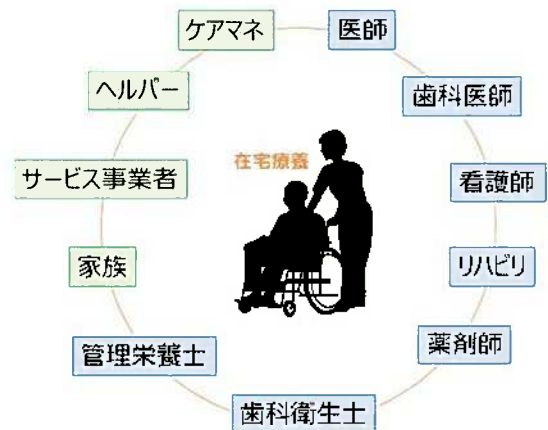
2. テーマ

最後まで自分の口で食べるを支える多職種連携

<現状の課題>

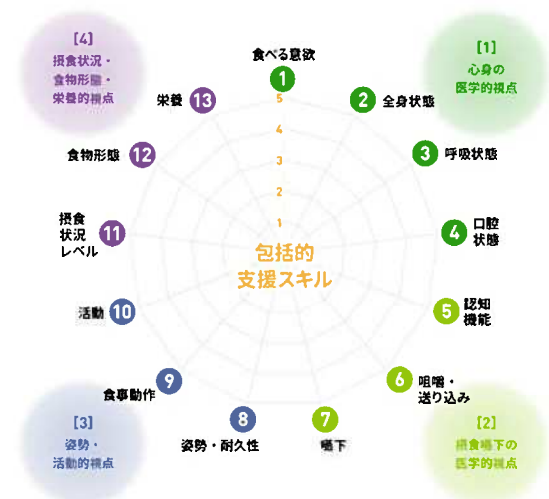
- ・ 在宅で口腔ケア、嚥下、栄養について相談にのったり、指導したりする機会が少ない
- ・ 食事や栄養不足になっている人に対して、どのようにアプローチしていいかわからない
- ・ 誤嚥性肺炎で入院し改善するもすぐに再入院される
- ・ 生をあきらめないためにも、食をあきらめないことは大切
- ・ 大好きなものを最期まで食べたい

在宅で歯科口腔ケア・嚥下・栄養をサポートする体制
(最期まで口から食べる)



多職種で総合的に評価する食支援ツールの例
KT(口から食べる)バランスチャート

- ・ 多職種による多面的な評価
- ・ 治療、ケア、リハビリテーションの成果を可視化
- ・ 専門家だけでなく、介護スタッフも使用可能
- ・ 科学的信頼性、妥当性が評価されている



3. 研修会開催までに大変だったこと、活動に参加して感じられたこと

<全体的な感想>

「ウェルビーイングとは」言葉の上で理解出来たが、本当の意味で「幸福、ウェルビーイング」の目的で検討出来ていたか？少し狭くしてしまった感が有ります。もう少し広く検討しても良かったかもしれないと今思います。活動はそれぞれの立場から意見が出て良かったと思います。

初回、加藤会長の夢現列車の話。煉獄さんの様な熱い想いに士気が高まりました。食べることは生命を維持するためだけではなく、楽しみや家族とのコミュニケーションとなるかけがえのないものであること。「誤嚥性肺炎にならない・させない」という安全面に重きをおいていましたので、ご本人やご家族に寄り添った支援をしていかななくては…と改めて感じました。

食べるということは、生きているなかで、楽しみのひとつで、おいしく食べられるということは、幸せなのだと思います。その手助けを、他職種で考えていくことができると良いと、改めて感じる事ができました。

多職種で考えていくことの良さを実感しました。研修会には、訪問先の施設の専門職が参加してくださり、以前より施設で多職種連携できるようになりました。

知識の少なさの実感を感じるとともに、専門職や外部との連携が必要だなと感じました。通所介護でももう少しどうにかできないかな…と思った次第です。

<大変だったこと>

限られた委員会の開催数の中で、結果が得られるような有効な研修企画、活動をする事は大変だと感じました。

<活動に参加して感じられたこと>

弊社でもやっとこの 4 月から、訪問歯科と 提携を組み口から食べる環境を整えていく運びとなりました。この研修会での報告が啓発活動となり、施設にもプラスに作用しています。

どんな境遇の人々にとっても大切な食べるという事に対して、多職種、多機関で協働する事で様々な視点からの意見や知識が集まり新たな施策が生まる、連携の大切さを実感できました。次年度は、初年度でウェルビーイングの概念を踏まえた上での食の捉え方が共有できているので、よりスムーズに多職種連携の動機付けや市民の生活の質を上げる事に結び付く、食べるを通しての活動ができるといいなと思います。

4. 来年度以降の取り組み

令和 5 年度の研修会では、終末期の食べる機能の変化、多職種の事例を学び、さまざまな方が連携することの重要性を学びました。「食べる」に関わる専門職だけでなく、在宅療養をする方すべてで連携し、「最期まで自分の口で食べることを支える多職種連携」が実践できるような取り組みをこの地域で根ざしていけることを目指して今後の企画・活動を行っていく予定です。

令和5年度	令和6年度	令和7年度
口から食べることに関する 多職種連携を知る 	多職種連携におけるツールを知る (KTバランスチャート) 	KTバランスチャートをそれぞれの職種で 活用できるようにする 

5 部会③企画研修会

「動く」

～リハビリテーション～



豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
部会③「動く～リハビリテーション」部会企画研修会

地域完結型リハビリテーション に向けた多職種連携

参加費
無料

2023年12月23日(土) 14:00～16:00
豊田加茂医師会館 2階 講堂 または オンライン
(豊田市西山町3丁目30番地1)

豊田加茂ウェルビーイングネットワークでは、病気や障がいがあっても、
誰もが自分らしく生きることを支えることができ、認知症や、人生の最終段階においても、
本人が、本人らしい選択ができ、尊厳をもって人生を全うすることができる地域となることを目指します。

講師

杉浦 真先生

愛知県厚生連 安城更生病院 脳神経内科
介護老人保健施設あおみ施設長



「超高齢社会における意思決定支援

— 一価値観を重視した協働意思決定とは —

事例紹介

「動く」という視点でそれぞれの立場から見た事例紹介

01

病院から見た
多職種連携

大原健人氏

三九郎病院 リハビリテーション部
理学療法士

02

在宅から見た
多職種連携

柴山 裕子氏

P-BASE マネジメントチーム
ケアマネジャー

03

施設から見た
多職種連携

橋本 順二氏

三好老人保健施設
理学療法士

詳細・申し込みはQRコードもしくは裏面をご確認ください

主催：豊田加茂医師会



日時：令和 5 年 12 月 23 日（土）14 時～16 時
場所：豊田加茂医師会館 2 階 講堂 と オンライン

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会③「動く～リハビリテーション～」企画研修会
「地域完結型リハビリテーションに向けた多職種連携」

進行 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一
部会③ 部会員 中 垣 義 治

開会・挨拶 豊田加茂医師会 会 長 加 藤 真 二

講演 （14 時 10 分～）

「超高齢社会における意思決定支援
—価値観を重視した協働意思決定とは—」

愛知県厚生連 安城更生病院 脳神経内科 介護老人保健施設あおみ施設長
杉浦 真 先生

事例発表 （14 時 45 分～）

「“動く” という視点からの多職種連携について」

病院からみたウェルビーイング

豊田市療法士会 理学療法士 大 原 健 人 氏 （15 分）

在宅からみたウェルビーイング

豊田市介護サービス連絡協議会 ケアマネジャー部会
主任介護支援専門員 柴 山 裕 子 氏 （15 分）

施設からみたウェルビーイング

みよし市療法士会 理学療法士 橋 本 順 二 氏 （15 分）

グループディスカッション（15 分）

▶司会・タイムキーパー・発表者を決めてください

▶①から③をお一人2分でお話ください。そのあとは自由にお話ください。

- ① 自己紹介
- ② 講演や事例発表を聞いて感じたこと
- ③ ご自身が今から取り組みそうなこと

全体共有

アドバイザー講評（15 時 50 分）

挨拶 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一

閉会（16 時 00 分）

豊田加茂医師会会員の先生方へ：本研修では、日医生涯教育制度2単位（カリキュラムコード：「13 医療
と介護および福祉の連携」1 単位「80 在宅医療」1 単位）、を取得していただけます。

主催：豊田加茂医師会

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク
【部会③】「動く～リハビリテーション～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和5年12月23日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（ZOOM）
- ・テーマ 「本人の想いを叶えるための地域完結型リハビリテーション」
 - ・講演 「超高齢社会における意思決定支援
—価値観を重視した協働意思決定とは—」

講師：安城更生病院 脳神経内科

介護老人保健施設あおみ 施設長 杉浦 真 先生

- ・参加者 93名

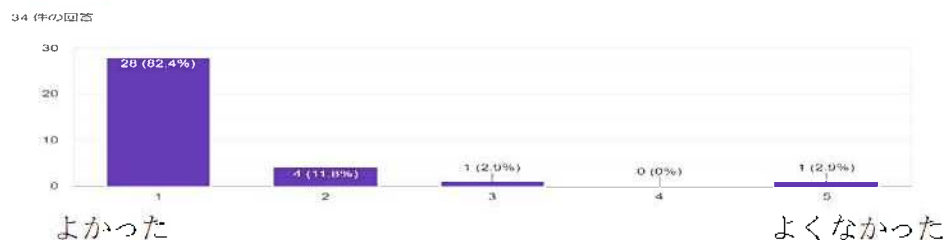
（内訳）医師7名、歯科医師2名、薬剤師4名、理学療法士18名、作業療法士7名、言語聴覚士2名、機能訓練指導員1名、看護師15名、保健師2名、介護支援専門員10名、社会福祉士5名、MSW2名、施設管理者4名、介護スタッフ6名、行政5名、歯科衛生士1名、管理栄養士1名、その他1名

- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 36名／93名（回答率：39.1%）12月25日現在



【アンケート結果】

(1) 本日の研修の満足度について



(2) 研修を通して、最も大きい学びや気づきは何ですか。

- ・ 本人の思いや気持ちを聴取できた時に、無理だろうではなく出来ることはなんだろうと考えていくことが大切だと感じました。
- ・ 本人や家族の希望に寄り添えるよう関わりたいと思いました。
- ・ チームで本人の思いを共有し、時間経過でその変化も確認・共有、柔軟に支援を行う事の大切さ。
- ・ 本人の思いを中心に。伴走者となる。
- ・ 患者が望む生活を送るためには、本人の思いを聞き、それを実現できるように本人、多職種でチームなり支えることが重要だと学びました。
- ・ チームアプローチの大切さ
- ・ それぞれの立場、専門性で動くことに加え、他職種との連携を加え、本人や家族の希望に寄り添えるよう関わりたいと思いました。
- ・ 多職種協働の大切さ、共同意思決定支援について
- ・ 就労とリハビリの連携について気づきを得ることができました。
- ・ 現場の連携と意識が、ここまで高いものであることを知らなかった。それを知れたこと。
- ・ チームで本人の思いを共有し、時間経過でその変化も確認・共有、柔軟に支援を行う事の大切さ。
- ・ 接する時の言葉の大切さを再認識した
- ・ 共働意思決定の重要性。NBM の考え方。
- ・ インフォームドコンセントから次の協働意思決定へとさらに考えを進めることの大切さを知ることができました。
- ・ 医療者はソムリエ。価値観は多様であるということを念頭において各々の尊重することが大事である。
- ・ 会話だけでなく、対話し、相手の気持ちに寄り添うことも大切と思った。
- ・ 多職種との連携が必要なことはもちろんその人の好みや思いについては継続的に介入できるように共有することがウェルビーイングにつながるのだと思いました。
- ・ うまく情報をお伝えしていくためには…を常に考えたいです。
- ・ PT, OT, ST は在宅でのアドバイス役として適正である職種であるとの助言を頂き、頑張っていきたいと思いました。
- ・ お一人おひとりが人生を引き受けて生きることを同伴されていて私もがんばりたいと思いました。
- ・ 講演にもあった協働意思決定の大切さを感じた。
- ・ Well Being の意味を考える機会となった。
- ・ インフォームドコンセントが現代に合っていないこと
- ・ 回復期リハビリと在宅リハビリの連携が課題

(3) 研修の内容はどのように実務に役立ちそうですか

- ・利用者様と関わる際、話される言葉の中にヒントがあるかもしれないと思い関わっていきたいと思います。
- ・患者様の思いを聞き、退院後の生活を思いに寄り添う
- ・明日からの業務でのご利用者への支援へ
- ・今後、若年性認知症のケースと関わる際に本日の研修の内容を思い返し、リハビリに繋ぐことも念頭に入れて支援に入れると思います。
- ・本人の思いや様子をどのように受け止めているのか、支援する関係機関の受け取り方を積極的に確認したい。
- ・利用者様の意見を聞いてきたつもりではいましたが、今回の研修でつもりになっていた所もあったので意見を聞いた上で相談が出来るようにしていきたいと感じました。
- ・本人の思いを聞いたら、多職種で考える
- ・訪看は終末期だったり急性増悪時、在宅生活への変化があるときに役立ちそうです。
- ・本人の思いを受け取めて協働して支援ができるようにしたいです。
- ・今後の仕事で、相手の気持ちをしっかり考え、相手ならこう思うのではというような思いやりの大切さ等実践できればと思う。
- ・チームの方向性を理解する
- ・病院勤務なので退院支援において本研修の内容を念頭に置きたいと思います。
- ・一人で抱え込まず、自分からチームにアプローチすべき
- ・他職種連携時に今日学んだことを生かしていきたい。
- ・多職種で研修を共有しており、多職種との連携、情報の共有の充実に役立つ
- ・看護師という立ち場だけではなく、自分もチームの一員。研修を現場に役立てます。
- ・医師など他部門への報告（利用者の思いを具体的に伝える）
- ・多職種連携を密に行い、チーム医療ができれば良い。
- ・業務を回すことにとらわれないように対象者の声を丁寧に聞いていく必要があると感じた。
- ・チーム医療において、多職種連携に必要な考え方。まずは相手を理解すること。「わかってくれるだろう」ではなく、意見の発信を目標の共有が大切であるということ。
- ・会議の中で有効に活用していきたいと思いました。
- ・チーム内や部下への指導も多職種共働。
- ・実際の症例を学べた
- ・カンファレンスや相談業務

6 部会④企画研修会
「課題別プロジェクト」
～地域づくり～

『出かけよう！』

参加費
無料

病気や障害があっても安心して出かけた、支える側も、充実感を得て支え続けたい
という双方にとっての「出かける」について、先駆的な取り組みを共有し、
「出かける」ことを実現するための取り組みが新たな社会資源となることを目指します。

令和6年
1/27
(土)
14:00～
16:00

場所：豊田加茂医師会館2階講堂とオンライン(ZOOM)
(豊田市西山町3-30-1)

申込方法：裏面FAXまたはメール(令和6年1月13日まで)

<講演>

「住民が本気になること」

講師：足助病院名誉院長
早川富博先生



<事例発表>

「事業所の車両を利用した地域活動」
デイサービスえんがわ

原田一彦氏

<グループワーク>

自分でもできることを考えてみよう

部会④メンバー

部会長

島 伸行

(みよし市) 地域包括支援センター

副部会長

深谷 好広

みよし市療法士会

部会員

山本 紀子

AMSW協会 西三河北部ブロック

福元 聡史

豊田市保健所管内栄養士連絡会

足立 久美子

(みよし市) 訪問看護

山本 綾子

(みよし市) 訪問介護

長沼 隆輔

(みよし市) 特別養護老人ホーム

藤江 貴紀

豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会

原田 一彦

(みよし市) デイサービス

金澤 考明

(豊田市) 地域包括支援センター

石塚 恵美

豊田市訪問看護部会

国松 佐知

豊田市地域自立支援協議会

水野 本代

(みよし市) 栄養士

後藤 亮吉

豊田市療法士会

<豊田加茂ウェルビーイングネットワークとは>

豊田加茂ウェルビーイングネットワークの活動は、病気や障がいがあっても、誰もが自分らしく生きることができ、認知症や、人生の最終段階において意思決定が困難になった状況においても、本人が、本人らしい選択ができ、尊厳をもって人生をまっとうすることができる地域となることを目標としています。

主催：豊田加茂医師会

問合せ先：豊田加茂医師会 事務局 ☎0565-33-7773 (兼松・那須)

日時：令和 6 年 1 月 27 日（土）14 時～16 時
場所：豊田加茂医師会館 2 階 講堂 と オンライン

令和 5 年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会④
「課題別プロジェクト～地域づくり～」企画研修会
「出かけよう！」

進行 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一
部会④ 部会員 藤 江 貴 紀

開会・挨拶 豊田加茂医師会 会 長 加 藤 真 二

講演 （14 時 10 分～）

「住民が本気になること」

愛知県厚生連 足助病院 名誉院長

早川 富博 先生

事例発表 （14 時 40 分～）

「事業所の車両を利用した地域活動」

デイサロン えんがわ

原田 一彦 氏

グループワーク（15 時～）＜40 分＞

【会場グループの方へ】

- ▶司会・発表者・書記を決めてください
- ▶困ったときは、各グループ担当の部会員が会場を回っていますのでお声がけください

【オンライングループの方へ】

- ▶司会・発表者を決めてください
- ▶部会員が一人ずつ入り書記をします

ワーク内容

- ① 自己紹介と「自分が穏やかになれるおすすめのお出かけ場所」・・・一人 1 分程度でお話ください
- ② 「出かける」取り組みについて
- ③ 自分たちにもできそうだと感じたこと

全体共有（15 時 40 分～）

質疑

講評（15 時 50 分～）

挨拶 豊田加茂医師会 副会長 平 吹 広 一

閉会（16 時 00 分）

豊田加茂医師会会員の先生方へ：本研修では、日医生涯教育制度 2 単位（カリキュラムコード：「13 医療と介護および福祉の連携」）、を取得していただけます。

主催：豊田加茂医師会

令和5年度 豊田加茂ウェルビーイングネットワーク

【部会④】「課題別プロジェクト ～地域づくり～」企画 研修会実施報告書

- ・開催日時 令和6年1月27日（土） 14時から16時まで
- ・会場 豊田加茂医師会館及びオンライン（ZOOM）
- ・テーマ 「出かけよう！」
 - ・講演 「住民が本気になること」
講師 足助病院名誉院長 早川 富博 先生
 - ・事例発表 「事業所の車両を利用した地域活動」
発表者 デイサロン えんがわ 原田 一彦 氏
 - ・グループワーク
- ・参加者 86名

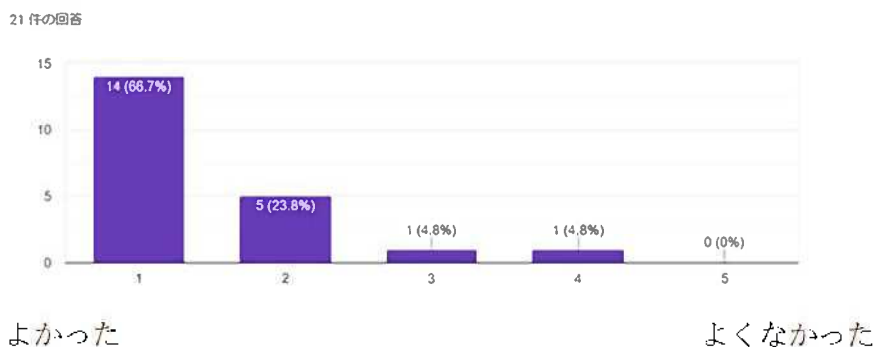
（内訳）医師11名、歯科医師3名、薬剤師2名、訪問看護師10名、看護師4名、理学療法9名、作業療法士6名、言語聴覚士2名、MSW3名、介護支援専門員9名、地域包括支援センター職員8名、介護職員5名、CSW2名、行政8人、病院事務等2名、その他2名

- ・アンケート実施方法 会場 アンケート用紙 オンライン（Google フォーム）
- ・回答者数 22名／86名（回答率：25.6%）



【アンケート結果】

(1) 本日の研修の満足度について



(2) 研修を通して、最も大きい学びや気づきは何ですか。

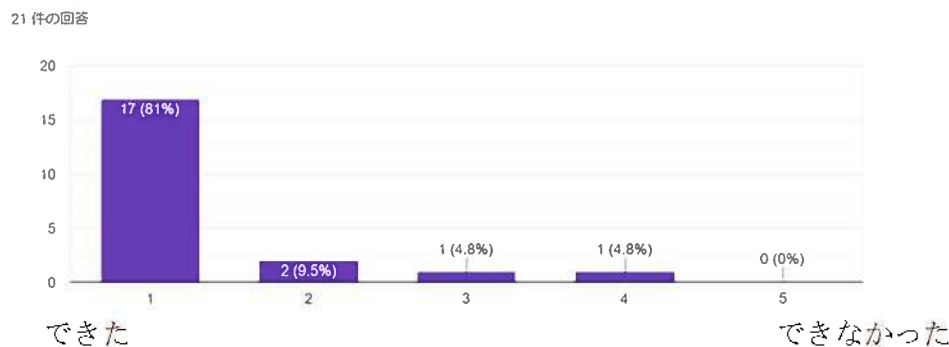
- ・ 出かけるを考えるきっかけ
- ・ 出かける際の移動手段方法の確立が重要であること
- ・ 地域とのつながりを創る楽しさ
- ・ 地域での取り組みを知ることができた。「出かける」を考えるきっかけのひとつになった。
- ・ 自ら「出かける」事の大切さ
- ・ 地域格差、住民同士の自助、地域のつながり
- ・ 色々な支援方法を考え、生み出していくことは大変ですが、地域を巻き込み、地域の人意識を変えていくことは本当に大変だと思いました。
- ・ 多職種で話げできたことが良かった
- ・ 地域づくりをするには、壮大なバックグラウンドが必要。
- ・ 地域での取り組みや、地域で支えることの基本的な点を学べたように感じました。
- ・ 地域の方の思いや考え、どういったことをしたいのか？なぜ困るのかを考えていきたいです。
- ・ 出きないと思っていた移動支援や買い物も、地域をまきこみながら、可能になることがある。
- ・ 本人や地域の方々が自分ごととして考えてもらう機会をつくること
- ・ 途中参加になってしまい内容の把握はできていませんが、より多くの方で支えることが（一枚のお皿）、よりよい支援方法が見つかるという事に改めて気づきました。
- ・ 医療介護分野だけみていては視野が狭いと思いました。
- ・ 買い物・外出は日常生活の中で大きな課題です。色々な案が参考になりました。
- ・ 長い付き合いの中で信頼されて初めてコミュニケーションが取れること。
- ・ 日頃生活する上で買い物・外出は大きな課題です。色々な案が参考になりました。
- ・ 出かけないと思っていた移動支援や買い物も、地域を巻き込みながら、可能になることがある。
- ・ 高齢者と子供のマッチングやサロンの活用
- ・ 山の方に住んでいる人は買い物一つも大変なんだと感じた。
- ・ 医療介護分野だけみていては視野が狭いと思いました。

(3) 研修の内容はどのように実務に役立ちそうですか

- ・ 地域への働きかけと結びつきに関する意見
- ・ 地域のためにと話していますが、実際月1回でも実行するにはよっぽど強い気持ちとお金も必要だと事前に知ることができて良かったです。
- ・ きっかけになると思う。
- ・ 出かけたが金銭的な問題で出かけられなかった利用者さんに情報提供出来そう。

- ・地域の方々との結びつき
- ・外へ行きたいという希望がある利用者に活用できるサービスの情報提供。
- ・地域の困り事として情報収集し、外出手段の把握ができれば良いと思う。
- ・地域住民との関係性。
- ・地域内でのサロン、イベント等で役立てたい。
- ・地域へ出た時に、住民の声に耳をかたむけていきたいです。
- ・地域への働きかけ。
- ・外出をあきらめないシステム作り、地域作り。
- ・自治区で話し合いたい（サロンを開きたいと思いました）
- ・出かけるきっかけ作りとして、身近の高齢者の方への情報提供等をしていけたらいいと思った
- ・役立つと思う。
- ・地域への働きかけ。
- ・すっかり忘れていましたが、訪看でも散歩など外出ができるのでコンビニとかの外出もしていきたい。
- ・生活背景の理解。

（４）本日の内容の理解度はいかがでしたでしょうか



その理由

- ・早川先生があれだけの障害を通して乗り越えて来られたことは、皆さんの励みになります。
- ・講演はとても興味深く参考になった。時間もちょうど良かった。山間部での暮らしは公助だけでは成り立たない。住民たちの自助共助が大切で、それぞれが問題意識を持たないと問題の解決に繋がらない。
- ・GWなどあり、より印象に残ったし、身をもって学べた
- ・地域の1人1人が考えてやれること考えることの大切さが理解出来ました。自分の立場でやれる事を考えたいと思う。
- ・みよし市の買い物支援が参考になった
- ・グループワークを通し、他職種の意見交換ができより理解することができた。
- ・解決策を具体的に探し出す事が難しかったが、こういった方法があるか考えるきっかけとなった
- ・具体的事例もあったが抽象的な内容と感じた
- ・時間は長かったが、内容は理解しやすかった。グループワークが充実していた
- ・グループワークを通し、他職種の意見交換ができより理解することができた。

7 研修受講後アンケート結果

豊田加茂ウェルビーイングネットワーク部会企画研修後アンケート結果

研修受講者のうち事後アンケートにお答えいただけたとの意志を表明された方に受講後の気持ちの変化や現状等についてご意見を伺いました。

アンケートの概要

対象者数

75名（内訳：部会① 21名 部会② 33名 部会③ 13名 部会④ 8名）

回答者数

18名（回答率24%）

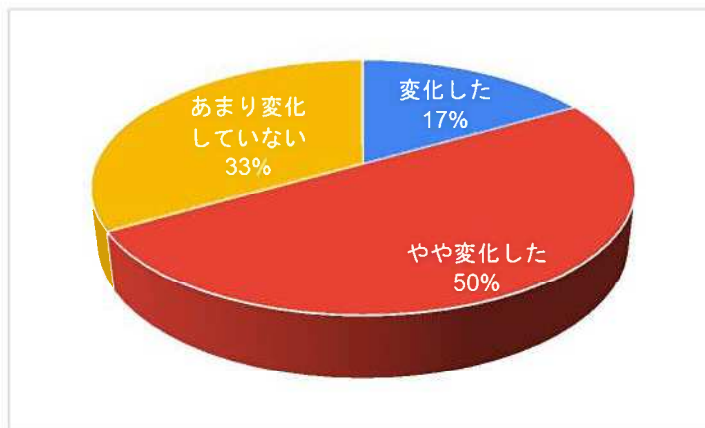
調査方法

オンライン（googleフォーム）

令和6年2月21日アンケート依頼のメール送信

アンケート結果

1 研修後、ご自身の行動が変化したと感じますか？



2 どのように変化したと感じますか？

「研修後、ご自身の行動が変化した」と回答した方の意見

- ・ご本人の状態を客観的に評価しながら、ご本人やご家族に合わせた支援を多職種で考えていくこと。【部会①】
- ・利用者や、家族が望むところを確認するようにしている【部会①】
- ・口腔ケアや嚥下体操を行い少しでも良いから自分の口から食べる楽しみを残して欲しいと感じました【部会②】

「研修後、ご自身の行動がやや変化した」と回答した方の意見

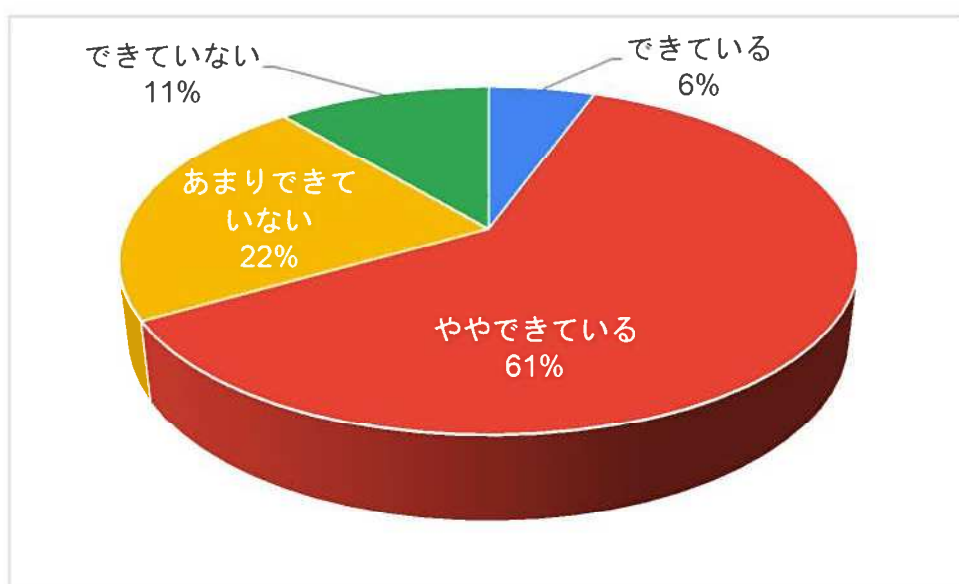
- ・考え方、捉え方が少し変わった【部会①】
- ・看取り期の方の対応に親身になれるような気がした。【部会①】
- ・ご本人の希望やご本人らしく暮らすことをより大切にしながら援助するようになった。【部会①】

- ・ 食べることの大切さを再実感した。【部会②】
- ・ 家族の老いや介護について、意識することが増えた。【部会②】
- ・ 食べられないことを受け入れられるようになった。【部会②】
- ・ 動くことへの大切さを再実感した。【部会③】
- ・ 多職種との意見交換の場を増やした。【部会③】
- ・ 何か自身でかかわりたい気持ちが強くなった。【部会④】

「研修後、ご自身の行動があまり変化していない」と回答した方の理由

- ・ 具体的な変化の行動が思い浮かばなかった。【部会①】
- ・ 口腔内ケアや嚥下・栄養管理が必要な患者に出会っていない。【部会②】
- ・ 考え方の幅が広がったと思いますが、行動の変化までは活用できていません【部会②】
- ・ あまり事例がない【部会②】
- ・ 日々の業務に追われて、意識している間がない【部会③】

3 研修を通して学んだことを、業務で実践できていると感じますか？



4 研修でのどんな学びを実践されていますか？

「研修を通して学んだことを、業務で実践できている」と回答した方の意見

- ・ ご本人がご自分の老いや近づく死についてどの程度受け入れておられるかを、よく観察しながら寄り添い方を模索するようになった。また在宅においては他業種の人より利用者と過ごす時間が多いことを意識し、仕事の範囲内でできることを意識的に探すようにしている。お風呂が好きな人にはできる限りお風呂の時間を長く、そして気持ちよく過ごしていただくことを考えたり、お食事が好きな方にはできる限りその方の好みにあった味付けにするよう心掛けている。【部会①】

「研修を通して学んだことを、業務で実践をややできている」と回答した方の意見

- ・ 看取りの入居者様だけでなく、家族、施設スタッフ、施設の医療従事者との関わり方、気持ちの捉え方を考えるようになった【部会①】

- ・亡くなられた後、訪問して家族に思い出になっていた事、感じていた事など聞くようにしている【部会①】
- ・その人の、求める治療や、方向性について常に意識すること。【部会①】
- ・嚥下がスムーズに出来るよう食事前にも口腔ケアを行い、今から食べる意識づけをする【部会②】
- ・やろうという意識変化はある【部会②】
- ・なかなか実践できていないが、気持ちや思いはあると思う。【部会③】
- ・出かけることの大切さを応援している。【部会④】
- ・多職種との連携【部会①】（その理由：対象の方が近くにいないから。）
- ・ご利用者が生活していく中で、本人の希望を優先し、後何が必要かを多職種のみんなと話し合いました。【部会③】（その理由：相手の気持ちを考えすぎてしまうから。）
- ・ICのあり方は、一方通行のものではないことを意識している【部会③】
（その理由：口腔内ケアや嚥下・栄養管理が必要な患者に出会っていない。）

「研修を通して学んだことを、業務で実践ができていない」と回答した方の理由

- ・対象の業務でないため。
- ・今は家族の在宅介護をしており、業務として高齢者支援に関わっていないので。（その理由：将来的には仕事として取り組みたいと考えている。"